

**製品名: ユビキチン (3V19) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe19547**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | 組換えウサギモノクローナル抗体  |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB, ICC/IF, FC   |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | モノクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |  |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:20-1:50, FC 1:20-1:100 |
| 分子量  | 26kDa  |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | UBB   |
| 別名           | FLJ25987; MGC8385; ubiquitin B; Ubiquitin; UBCEP1; UBCEP2; RPS27A |
| 遺伝子 ID       | 7314.0  |
| SwissProt ID | P0CG47  |
| 免疫原          | ヒトユビキチンの合成ペプチド  |

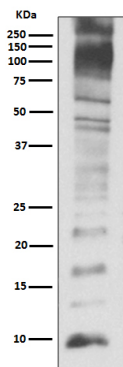
**背景**

ユビキチン-プロテアソーム経路において重要な役割を果たします。ユビキチンは、ユビキチン化プロセスによって多くの細胞タンパク質と共有結合し、26S プロテアソームによる分解の標的タンパク質となります。標的タンパク質とユビキチンの結合プロセスには、3つの要素が関与しています。ユビキチンはまず活性化要素 E1 とチオールエステル複合体を形成することで活性化されます。活性化されたユビキチンは次にユビキチンキャリアタンパク質 E2 に転移し、E2 からユビキチンリガーゼ E3 へと運ばれ、最終的に標的タンパク質のリジン残基のイプシロン NH<sub>2</sub> に届けられます。[ユビキチン]: 他のタンパク質と共有結合しているか、遊離状態（アンカーされていない状態）で存在します。共有結合すると、モノマー（モノユビキチン）、ユビキチンの異なる Lys 残基を介して結合したポリマー（ポリユビキチン鎖）、またはユビキチンの開始剤 Met を介して結合した線状ポリマー（線状ポリユビキチン鎖）として、イソペプチド結合を介して標的タンパク質に共役します。標的タンパク質に付着したポリユビキチン鎖は、結合したユビキチンの Lys 残基に応じて異なる機能を持ちます。Lys-6 結合は DNA 修復に関与する可能性があります。Lys-11 結合は ERAD（小胞体関連分解）および細胞周期制御に関与します。Lys-29 結合はリソソーム分解に関与します。Lys-33 結合はキナーゼ修飾に関与します。Lys-48 結合はプロテアソームによるタンパク質分解に関与します。Lys-63 結合型ユビキチンは、エンドサイトーシス、DNA 損傷応答、そして転写因子 NF- $\kappa$ B の活性化につながるシグナル伝達プロセスに関与しています。開始因子 Met による結合を介して形成される直鎖ポリマー鎖が細胞シグナル伝達を誘導します。ユビキチンは通常、標的タンパク質の Lys 残基に結合しますが、まれに Cys または Ser 残基への結合が観察されています。ポリユビキチンが遊離状態（非アンカー型ポリユビキチン）にある場合、タンパク質キナーゼの活性化やシグナル伝達など、異なる役割も担います。

## 研究分野

神経科学

## 画像データ



293T 細胞溶解物中のユビキチン発現のウェスタン ブロット分析。